

## 第81回 (本年度第2回) 機器・部品メーカー懇談会

日 時：11月22日 (木) 15:00～19:45

場 所：太閤園「ゴールデンホール東」  
「羽衣の間」

主 催：関西支部部品運営委員会

次 第：

1. 部品運営委員長挨拶
2. 機器業界の動向と部品メーカーへの要望
  - 1) スマートフォン市場動向と当社取組について ----- シャープ(株)
  - 2) スマート家電 アプライアンスの取組み ----- パナソニック(株)
  - 3) カーエレクトロニクスの動向と今後の展開 ----- 三菱電機(株)
  - 4) LED 照明の現状と今後の展開について ----- パナソニック(株)
3. 電子部品業界からの報告
  - リレーの市場・技術動向 ----- オムロンリレーアンドデバイス(株)



最初に澤村 諭 委員長 (ローム(株)代表取締役社長) より挨拶があった。「部品業界では10～12月のグローバル出荷を前年比5～9%増と予測しているが、スマートフォン、タブレットを除くと10～15%減で、中国の状況も含めて一層の厳しさが予想される。ドイツの見本市エレクトロニカでは、自動車、産機、環境エネルギー等の分野で様々なソリューションが提案され、大変な活況であった。我々も本日のご発表を伺って機器メーカー様のご要望に即した提案を進めていきたい。」

続いて、機器メーカー4社より各製品の市

況等につき報告した。**スマートフォン**：国内外それぞれのマーケット状況とインフラの動向が説明された。世界的に、FD-LTE から2014年にはLTE-A (通信速度300Mbps) に移行すると見込まれる。また、省電力・高精細の次世代ディスプレイについても紹介があった。**スマート家電**：世界の白物家電市場では、インド・東南アジアとブラジルが中国を上回る伸びを見せている。NFC (Near Field Communication) や特定小電力無線でスマートフォンを介して家電とクラウドをつなぐことにより、多様なアプリを用いて新たな利便性・価値を生んで行くソリューションの展開が詳しく説明された。**カーエレクトロニクス**：中国の自動車販売は既に日米の合計を上回る規模だが、保有率はまだ低く、インドと並んで今後も世界の市場を牽引する。今後の車に求められる安全・安心運転支援、ITS やカーマルチメディアを活用した走行支援の説明と共に、カーナビの価値再生に向けた取組みが紹介された。**LED 照明**：照明の歴史を振り返ると、ガス灯から蛍光灯までほぼ60年毎に新たな技術が生まれており、LED の登場もそのサイクルに合致する。LED 照明の普及は世界的に着実に進んでいるが、近年の節電志向や品揃えの拡大で日本がトップを走る。従来の「省エネ・長寿命」の単純な訴求から、今後はあかりの「質」を進化させて新たな価値を生む取組みが求められる。課題として安全、性能、測定基準等の国際規格化に官民一体で取り組む重要性が強調された。最後に、**部品側**からリレーの市場・技術動向について報告した。これから新エネルギー機器や電動車両の普及が進むにつれ、直流負荷を制御する環境商品向けリレーの需要拡大が期待される。

各報告毎に活発な質疑応答が行われ、会議終了後の懇親会も含めて、関西の部品各社トップと機器各社事業責任者の交流が進められた。

講演「日本のものづくり神話再考～サムソンのグローバル戦略に学ぶ～」

機器運営委員会（委員長：シャープ(株)大畠昌巳執行役員）では、12月13日（木）に東京大学大学院経済学研究科ものづくり経営研究センター特任研究員の吉川良三氏をお招きし、掲題の講演を行った。国内電機メーカー出身の同氏は、94年から約10年間にわたり韓国サムスン電子の常務役員として、デジタル技術による設計・開発の業務革新を担当された。同社の強みに関する著書が多く、各地で講演も行われている。21世紀のグローバル化で世界の産業構造は大きく変化した。国内で設計した製品を海外の安い労働力で生産する「国際化」を「グローバル化」と誤解している限り、日本は世界で勝てない。真のグローバル化に求められるのは、成長市場として期待される各国にしっかりと根を下ろした地域密着型のものづくりである。また、「ものづくり」を設計思想の具現化と捉えた場合、日本では「つくり＝品質と生産性の向上」が過度に重視されるが、グローバル化を進める上では「もの＝顧客が求める価値」こそが鍵を握る。スピード決定と3つのイノベーション（プロダクト、プロセス、パーソナル）で危機を克服し、成長を実現したサムソンの経営と戦略について詳しく説明があり、グローバル競争時代に日本企業が復活するための提言が行われた。



大阪大学における「JEITA 関西講座」

関西IT・ものづくり技術委員会／産学連携分科会では、前期の神戸大学に引き続き、後期は大阪大学大学院にて「JEITA 関西講座」を開講している。講師は会員各社より派遣いただいております。それぞれの講義テーマは次表

(順不同)の通りである。全講義終了後は、講義内容について理解を深めるため、学生がグループ毎に各企業を訪問し、講師へのインタビューを行う。

講義テーマ	担当企業
半導体発光デバイスの開発	シャープ(株)
社会を支える防犯カメラの実際	TOA (株)
環境エネルギービジネス (NECST プロジェクト) の立ち上げ	ニチコン(株)
家庭用燃料電池の開発	パナソニック(株)
血糖センサの開発とその応用	パナソニック(株)
船用衛星通信の技術動向について	古野電気(株)
DVD プレーヤー/レコーダの開発 (機能の向上とコストダウンの両立)	三菱電機(株)
企業における研究開発 (電子部品の開発を中心として)	(株)村田製作所

京都市における「ものづくり教室」



部品運営委員会（委員長：ローム(株)澤村社長）では平成20年度より、小学生にもものづくりへの興味・関心を持ってもらう目的で、はんだ付けを伴う電子工作を経験してもらう「ものづくり教室」を実施している。本年度は12月15日（土）に京都市の「京都まなびの街 生き方探究館」にて行い、同市の小学4～6年生18人が「うそ発見器」の製作に取り組んだ。1人を除いてはんだ付けは初めてとのことであったが、委員会メンバーから派遣いただいた指導員に教えてもらいながら、やけど等の事故もなく全員が時間内に完成し、楽しく遊んでもらうことができた。アンケートでは17名が「大変おもしろかった」と回答し、「理科はあまり好きではないので、これから好きになりたい」といった感想もあり、成果が上がった。